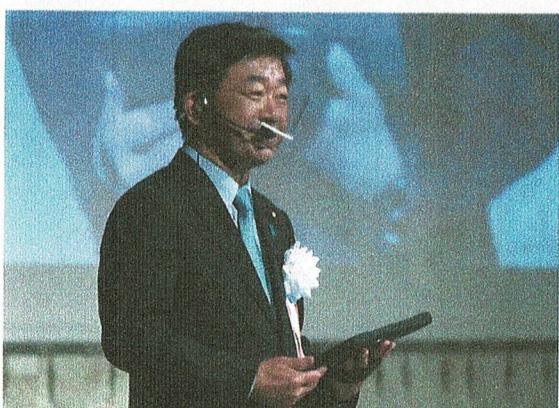


足立敏之「国政セミナー」講演録

ウィズコロナ時代の 新たな国土づくりに向けて



令和2年11月24日(火)



皆様、本日は「足立としゆき国政セミナー」に多数ご出席を賜り心から感謝を申し上げます。

本日は、「ウィズコロナ時代の新たな国土づくりに向けて」と題しまして、

- ①災害の頻発する脆弱な日本
 - ②海外と比較して低水準の貧弱な日本のインフラ
 - ③必要とされる公共投資
 - ④建設産業のさらなる再生に向けて
- という4つの柱でお話をさせていただきます。

1 災害の頻発する脆弱な日本



脆弱な日本

まず、大事な点ですけれども「脆弱な日本」、日本は本当に非常に脆弱な国になっている、そのように思います。

今年も7月に、熊本で大きな水害がありました。過去を思い起こすと、東日本大震災が発生した平成23年に、新潟・福島の豪雨災害があり只見川がズタズタになってしまいました。続いて紀伊半島大水害がありまして、紀伊半島でたくさん天然ダムが出来てしまいました。

あの頃から、日本の災害の起こり方が大きく変わってきたと思っています。

特に、平成29年から災害の大きさというか激しさが、かなりエスカレートしてまいりまして、広域化、激甚化しています。平成29年の九州北部豪雨①の時に、福岡県朝倉市の筑後川支川の赤谷川をはじめ土砂洪水氾濫という新たな形態で我々が経験したことなかった大規模な土砂災害が起こりました。



翌年が、平成30年の西日本豪雨災害❷です。広島でやはり土砂洪水氾濫により大規模な土砂災害が起こりましたけれど、倉敷市の真備町では、破堤氾濫に伴う浸水により50人以上も水死で亡くなる大変悲しい災害が起こりました。

それから、昨年は台風19号の水害です。スライド❸の上部の川が阿武隈川ですけれども、宮城県の丸森町で、ここでも土砂洪水氾濫が起こって、土砂が大量に押し寄せて、堤防が10数カ所で切れました。ほとんど堤防の内側からの水で、川側に向かって堤防が切れており、大変な洪水がありました。

今年は熊本で大きな水害が発生しました❹。熊本県の人吉市ですけれども、中心街が激流に飲み込まれてものすごい浸水被害を発生しています。

スライド❺は、人吉市内の中心街の九日町商店街ですけれども、よく見ると、結構上のほうの2階より高いところまでゴミとか、草とか、木が引っ掛けかっているのがわかります。頭の上2m~3mの所を水が流れた痕跡があちこちにありますて、本当にひどい水害だったと思いました。

次のスライド❻は、同じ人吉市の青井阿蘇神社の門前ですけれども、400年以上続く国宝に指定されている神社ですが、このように鳥居が沈んでしまうようなことがおこりました。この拝殿は、江戸時代に2回浸水したそうですけど、明治以降そういったことはなかったんです。それが今回のこういう大きな洪水で浸水してしまったということで、今回の熊本の水害がそれぐらい稀な大きな災害であったといえると思います。



2



3



4



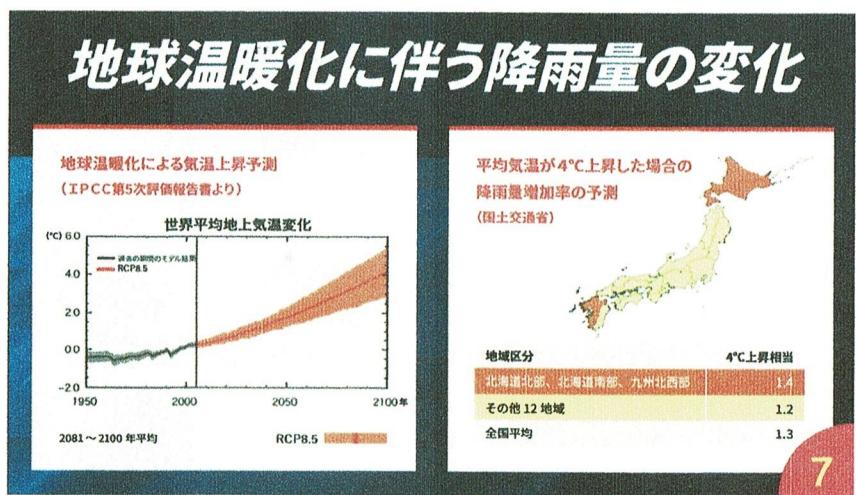
5



6

なぜこういう大規模な水害・土砂災害が発生しているのかですが、それは地球温暖化の影響が顕著に出始めたと考えています。

スライド⑦に示しましたが、IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）といいまして今後の気候変動でどれだけ温度が変わっていくかという予測をしています。この1世紀ぐらいで温度は1°Cぐらい上がっていますが、今後の1世紀で大体3~5°C上ると予測しています。このまま気温が上昇していくとどんなことが起こるかというと、海水温が上がって蒸発散量が増え、降水量が増えてしまう。それから台風が日本近海で発生したり、これまでに経験したとがないコースでやってくる⑧、そういうことが発生すると考えられます。こうしたことからすると、温暖化の脅威というものはますますこの世紀末に向けて高まっていくと言えます。



必要な事前防災

そう考えますと、当然必要になっているのが、事前の防災対策です。あらかじめちゃんと対策を講じて災害に備える、それがやはり大事だといえると思います。

事前防災の例ですが、皆さんご承知の八ッ場ダムでございます⑨。

昨年の10月にこのダムは完成しました。政権交代に伴いまして、平成21年の9月に前原国土交通大臣により、八ッ場ダムは中止するという話になりました。下流の都県知事からは、「いやそれは困る、利水も治水も心配だ」ということで皆さん反対されまして、ダムの中止自体を断念するように国交省に求めました。こうした抗議を受けまして、再度検証を行うことになり、その後事業の継続が決定し、私が水

管理・国土保全局長の頃から技監の頃にかけまして八ッ場ダムの本体工事に着手しました。なんとか昨年の10月までに本体工事を完成して、台風19号の出水の際に大きな効果を発揮したものです。試験湛水を始めたばかりの状態でしたけれども、一晩でスライド⑩のような状態に水を溜めて下流の出水を低減させる効果を発揮しました。



八ッ場ダムについては奇跡的に間に合ったと言えると思いますが、もう一方の熊本の川辺川ダムですけれども、こちらの方は、八ッ場ダムと同じ時に前原大臣に中止と言われまして、それ以降、ダムによらない治水対策をずっと検討してきました。そんな中で球磨川が大きな被害を受けてしまいました。とても残念です。しかし、スライド⑪を見ていたいともわかるように、球磨川本川と支川の川辺川、それが合流するのが人吉地点で、前線性の雨はこの一帯に降りますので、両方の川から同時に水が出てきてしまうということになります。従いまして支川の川辺川の出水を遅らせることができる川辺川ダムは、治水対策として他に選択肢がないぐらい大事なプロジェクトだったと言えると思います。

もし、川辺川ダムが完成していれば⑫、という前提で九州地方整備局で検証しましたけれど、人吉市の温泉街のところで、川辺川ダムが仮にあれば1.9m水位が低下できただろうという結果です。ここは特殊堤、パラペットの堤防になってますが、川辺川ダムがあったらこの地点では、なんとか堤防の範囲内で水位が収まっただろうと考えられました。

また、浸水面積ですけれども、スライド⑬の左側が実績で右側が川辺川ダムがあった場合ということですけれど、浸水面積は6割削減できただろう、さらにもっと重要な事ですが、浸水深が3.0mを超える範囲、人が亡くなるような浸水深ですが、これが9割ぐらい減少ただろうとみられておりまして、こうしたことからも必要なダム、川辺川ダムはちゃんと建設しておくべきだったというのが大きな教訓だと思います。

先ほどから事前防災という話をしききましたけれども、災害が来る前にしっかりと防災対策を完成させておくということが大事だと改めて感じています。

八ッ場ダムの出水時の働き



10

川辺川ダムの計画



11

川辺川ダムがあれば



12

川辺川ダムがあれば

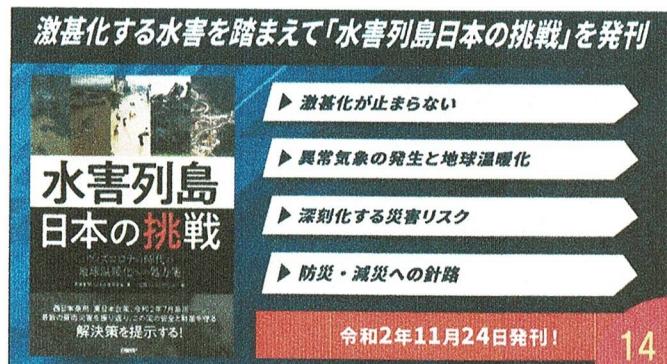


令和2年10月7日 第2回球磨川検証委員会資料(国土交通省九州地方整備局)

13

少しPRをさせていただきます⑭。脆弱な日本の現状を知っていただきたいということで、以前『激甚化する水害』という図書を国交省で一緒に仕事をした仲間で出版させていただきました。今回、西日本の豪雨災害、昨年の台風15号・19号の災害、そして今年の球磨川の水害、そういった水害のデータも蓄積してリニューアルする形で『水害列島日本の挑戦』という本を出版させていただきました。

令和2年11月24日発刊ですけれども、なかなかいい本だと思いますので是非皆様にはご購入をいただくようにお願いをしたいと思います。



14

2 海外と比較して低水準の貧弱な日本のインフラ

次に、貧弱な日本のインフラについてお話をさせていただきます。

海外旅行に行ったときに日本のインフラが貧弱だと感じたことが皆さんもあるのではないかと思います。宏池会の岸田会長は外務大臣を長くやられていましたので、海外と比較してどのように日本のインフラについて感じいらっしゃるのかお話を聞きに行つたことがあります。岸田会長は、「そう言われば日本のインフラっていうのは海外に比べたら貧弱だなあ」っておっしゃっておられたのがすごく印象に残っています。

高速道路の車線数⑮についてみると、日本はご承知の通り予算が厳しくなったときに暫定2車線の高速道路を作ることを選択し、日本の高速道路の約4割が暫定2車線⑯になっています。他の国には、暫定2車線というはありません。高速道路の概念におそらく暫定2車線はないんだと思います。実は韓国は20年前は4割ぐらい暫定2車線があったらしいですが、20年すでに解消しています。こういう状況ですと、生産性や物流面で、さらには災害時の復旧の面でも問題になります。

最近では道路局もそういったところはよくお考えいただくようになって、暫定2車線区間の4車線化⑰に本格的に取り組み始めていますが、100%四車線化に向けて、しっかり頑張っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。



15



16

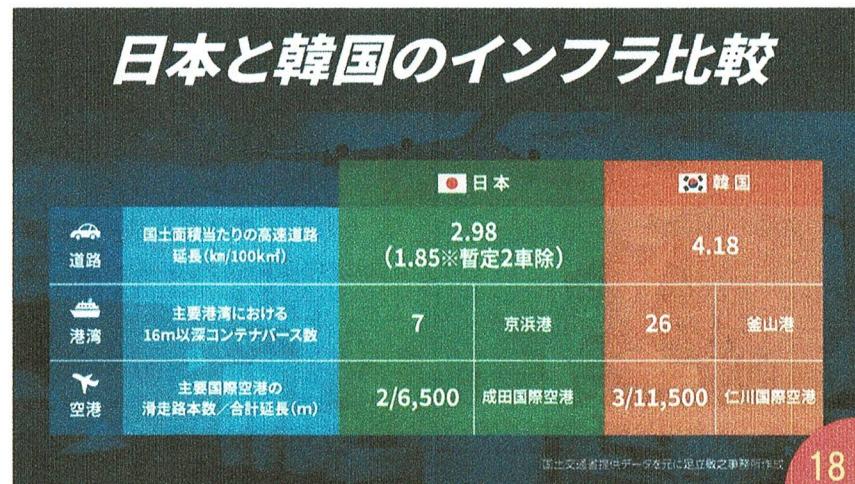


17

さて、ここで、先ほどちょっとお話ししました日本と韓国のインフラの整備水準の比較¹⁸をしてみたいと思います。

日本と韓国のインフラ、皆様はどちらが整備が進んでいると思っていらっしゃいますか。大体の方は日本はインフラ大国だし、韓国に負けているはずはないと思っておられる方がほとんどだと思うのですが、国土面積当たりの高速道路の延長を調べると、100km²当たり、すなわち10km×10kmのメッシュに何kmあるかという指標ですが、韓国は4.18、約4kmあります。日本は2.98。4に対して3だと思ったら、よくよく考えると暫定2車線が高速道路ではないと考えた時には、2.98に四車線の率の0.62をかけると、日本の高速道路の延長は1.85になってしまいます。韓国の4.18に比べて日本は1.85という大変残念な数字になって、面積当たりの高速道路の密度が韓国の半分以下という評価になってしまいます。

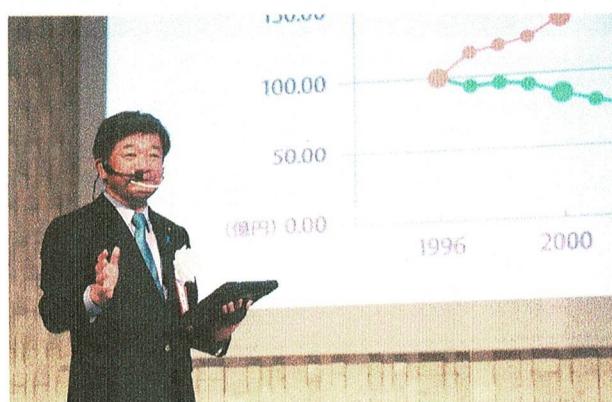
一方、港湾ですが京浜港に16mより深いコンテナバースは7カ所、京浜ですから東京港と横浜港ですけれども、釜山には26あって京浜港には7つしかない。そんなことになります。空港も成田と仁川を比較すると¹⁹、成田は滑走路が2本、延長は6,500m。仁川は3本で11,500m。同じスケールで比較したスライドをみると、仁川にはスペースがあって4本目をどうも作っているような感じです。日本も成田で3本目の議論をしていますが、こうして比較すると日本はやっぱり韓国に取り残されてしまっている、そう言えるのではないかと思います。韓国と日本のインフラの比較をしてなぜそんな状況になっているかなんですが、その背景にあるのはやはりインフラ投資の違いにあると考えられます。



成田国際空港と仁川国際空港



日本と韓国のインフラ投資の違い



日本はこの20年間で公共投資を半減させました²⁰。一方、韓国では2.7倍にまで伸びてきています。20年間かけて半分に減らしてきた国と、2.7倍にしている国では、大きな違いがでてきていると考えざるを得ません。

やはり、韓国や中国や台湾などの国々と肩を並べるような、インフラの整備レベルにしていくためには、しっかりとインフラ投資をしなければならない、そう強く感じています。

3 必要とされる公共投資



そこで必要となるのが公共投資です①。日本の公共事業予算が1番多かったのは平成10年で、補正予算も含めて15兆円近く公共投資がありました。それが小泉政権で減り始め、特に民主党政権で大幅に減って、平成24年の野田佳彦総理の時が一番底で4.6兆円。民主党政権の最後の年ですけれども、それ以降自公政権に戻していただいてアベノミクスで増やしていくて当初予算につきましては6兆円規模にまで持ってきていただきました。

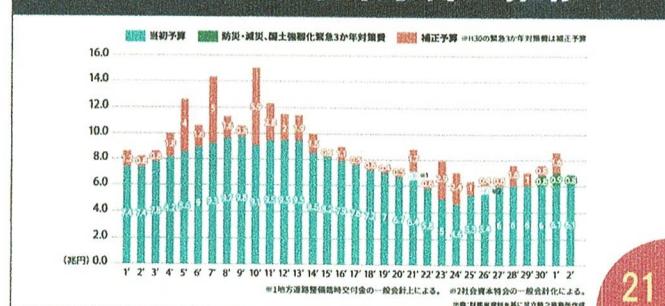
しかし、6兆円規模を持ってきていただいたんですが、冒頭でお話ししましたが、脆弱な日本、毎年あれだけ大きな災害があったということで、平成30年度から3ヵ年、防災・減災、国土強靭化の3ヵ年緊急対策ということで毎年1兆円ぐらいずつ予算の上積みをしていただき、公共投資6兆円が7兆円位の規模になったわけです②。しかし、今年の概算要求では皆さんご承知のように当初予算部分については1.0倍要求していいよということになりますので6兆円一応要求されていますが、防災・減災、国土強靭化の3ヵ年対策については、財務省の指導で要求をさせていただけていません。ただ、こういうものが必要だと金額を明示しない事項要求という形で要求はしております、これをどう決着させるかというところが大事なポイントでございまして、その分がなくなってしまうと公共投資全体が大変厳しくなってしまいます。

今まで毎年7兆円位あったのが6兆円に戻ってしまうことになるので、防災・減災、国土強靭化の3ヵ年をどうやって続けていくか、それをわれわれは3ヵ年を5ヵ年にしてほしいとか、整備のメニューについても老朽化対策や交通ネットワークの充実などを含めて続けていただきたいと話をしています。この決着がどうなっていくかをしっかりと皆さんも見守っていただきたいと思いますし、中央に対して要望活動をしていただいて後ろから押していただきたいと思います。

(12月時点で防災・減災、国土強靭化のための加速化計画として、5ヵ年15兆円が決定となりました③。ありがとうございました。)

ところで、公共投資を増やすと後世へのつけ回しになるんじゃないのか、だから今は公共投資を増やすべきじゃない、特にコロナでこんなに

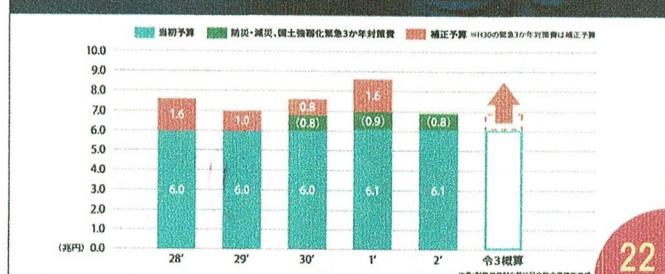
日本の公共事業予算の推移



21

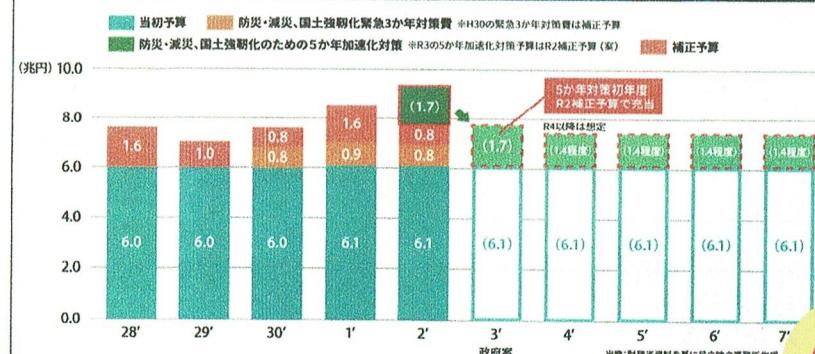
最近の公共事業予算の推移

求められる「防災・減災、国土強靭化緊急3ヵ年対策」の延長と拡充



22

「防災・減災、国土強靭化のための5ヵ年加速化対策」の決着



A

お金がかかってる時なんだから公共投資はもっと減らしたほうがいいんじゃないのか、という議論をする方もいらっしゃいます。しかし、そもそも公共投資というのは建設国債という60年償還の長期の借入金で計画的にインフラ整備を行いながら償還していく制度あります²³⁾。

一方、医療の分野でいま赤字国債を充てて税収不足を補填していますが、それとはそもそも違う性格のものなんだということをよく理解しないといけないと思います。

家計でいうと、建設国債は住宅ローン、長期の借入金に相当します。これを借りて住宅を確保し、計画的に給料で返済していく、そういう仕組みと建設国債は似ていると思います。

一方、赤字国債に相当する部分は収入が減った時にサラ金から金を一時的に借りて補填する、そのようなものと考えていいと思いますので、公共投資にあてる建設国債は赤字国債とは異なり、計画的に措置されるものであって、これをしっかりと引き続きやっていくことが大事だと思っています。

公共投資は建設国債で計画的に実施

国の財政	家計でいうと
建設国債 60年償還の借入金で計画的にインフラ整備を実施	住宅ローン 長期の借入金を借りて住宅を確保し、計画的に返済
赤字国債 税収不足を赤字国債という借入金で一時的に補填	サラ金等からの借金 収入不足をサラ金等から借金して一時的に補填、かさむ借金

23

4 建設産業のさらなる再生に向けて

最後になりますが、公共事業を再びしっかりとやっていくためには建設産業の皆様の頑張りが必要です、そのためには、建設産業の皆さん方が仕事をしやすくなるために環境整備が必要です^{24・25)}。建設業の役割として最近では、防災の担い手、災害からの復旧・復興の担い手、こう面が注目されていますが、困った時だけ頼るのではなく、日頃からしっかりと利益が得られ、仕事が進めやすくなるための環境整備をしていく必要があります。

そのためには、「量の確保」と「質の確保」、この2点が建設産業の為には大事です²⁶⁾。

「量の確保」というのは先ほどからお話をしてきた公共事業予算の計画的確保です。一方、「質の確保」は、先日、品確法の改正をさせて頂きましたけれど、建設産業のために適正な価格や工期の設定、発注の平準化など建設産業が仕事をし易くなる取り組みを進めることが大事です。また、設計労務単価等をアップしたり、歩掛りや入札契約制度の改善をしたり、週休2日制など働き方改革を進める、こういったことで建設産業の皆さんの環境を整えていくことが大事で、これからも佐藤先生としっかりとタッグを組んでやっていきたいと思っています。

建設業の役割

- ▶ インフラ整備の担い手
- ▶ 道路・河川などの維持管理の担い手
- ▶ 防災の担い手、災害復旧・復興の担い手
- ▶ 地方創生の担い手

24

災害の現場で頑張る地域の建設業



熊本地震被災現場



石狩川水系空知川(南富良野町)

25

ところで、今年の9月に台風10号が、九州の西方沖を北上した時に宮崎県の椎葉村で、土石流の被害が発生しました²⁷。そこには、建設業の相生組という、宮崎県建設業協会の日向支部の相談役の社屋と住宅があったんですが、私も現地を見させて頂きましたが、そこが土石流の直撃を受けてしまいました。社長さんは一命を取り留められましたけれども、奥様それからご子息の専務さん、ベトナム人の技能実習生2人が行方不明になりました、ベトナムの方は、お一人ご遺体で発見されました。残り3名がまだ発見されていません。実は台風通過後に復旧作業しないといけないから地元にとどまってそこにいた、そういうところが被災したわけであります。地域で頑張ってる建設業がそこに住んで守っているということを象徴的に示す残念な出来事だったと思います。今年の災害を見ていると建設業の方々の家屋の被災がたくさん見られました。岐阜高山でもありました。大分でもありました。各地でそういうことが起こっていますが、そのように地域に留まって守っている方々への保証など、国交省にもしっかり考えていただいて、建設業が未来に向けてしっかりとその地でやっていけるような関係を作らないといけないと思っております。ご支援をよろしくお願ひしたいと思います。

最後にデジタル化についてお話をさせていただきます²⁸。

先日、秋田の成瀬ダムに伺いました。台形CSGの現場で、CSGのコンクリートをダンプトラックで降ろし、それをブルドーザーで敷均し、振動ローラーで締め固めるという、昔でいうRCD工法の様な施工をしています。私が行った時にはブルドーザーと振動ローラー、震動ローラーという表面を締め固める重機がみんな無人で施工していました。さらにもう少し大量施

建設産業再生のために必要な取り組み

【量の確保】公共事業予算の計画的確保

【質の確保】建設業の環境整備のための施策の着実な実施

▶ 構造法の改正による迅速な災害復旧手続き、適正な価格・工期の設定、発注の平準化等

▶ 賃料支給単価等のアップ、入札契約制度の改善、週休2日制など働き方改革の推進等

26

令和2年9月台風10号宮崎県椎葉村の土砂災害

地域の建設業の方々が台風通過後の復旧作業のための待機中に被災



写真：足立敏之事務所

27

必要とされる建設分野のデジタル化

建設工事の自動化



成瀬ダム堤体（CSG工法）全休施工状況



写真：足立敏之事務所

28



工になつたらダンプも無人化すると現場では伺いました。

大変驚きました。ブルワークというのは、職人芸のいるものと私は思ってましたので、これをプログラミングしてこのようなことが出来るようになったというのは大変驚きました。しかし、こういうことまで無人化施工できるのであれば、逆にいふと建設業の分野でこれからデジタル化に、もっともっと積極的に取り組むべきではないかと思いました。

一方、もう少し小規模な現場でもi-Constructionに取り組むなど様々な技術を導入されていますし、ドローンの活用もかなり普及してきてます²⁹。菅内閣の1丁目1番地の施策であるデジタル化といったことに建設産業が先頭切ってしっかりやっていただければありがたいと思っています。

なぜなら、建設産業はデジタル化などの最先端の技術を使って、未来型の産業としてこれからも発展してほしいと思っているからです。

スライド³⁰は成瀬ダムの現場の無人化施工を制御しているオペレーションルームですが、こうやってコントロールしている人たちがこんなおしゃれな環境で、都会のビルで仕事をするかのような、そんな雰囲気で仕事されていました。建設産業も未来志向で、こんな取り組みをしていったらどうか、やはり建設産業に若い人たちに引き続き入ってきていただくためには、どんどん環境を整えてICTやi-Construction、デジタル化などいろんな取り組みを進めて、未来のある未来を創る産業に大きく変わっていけるように私も引き続き頑張っていきたいと思いますので、皆様のご支援をよろしくお願いしたいと思います。

以上、私の方からの国政報告でございました。

これからも建設産業の再生のために公共事業予算の確保も含めて、とにかく全力で頑張らせていただきますので、皆様のご支援を引き続きお願いを申し上げ、私からの国政報告を終わらせていただきます。

ご静聴どうもありがとうございました。

必要とされる建設分野のデジタル化

建設工事の自動化

地域建設業にも
ICTの導入



29

建設産業の未来

デジタル化により
進化する建設産業

写真：（株）日揮建設

30



参議院議員 足立敏之〔現在の役職〕



《参議院》

国土交通委員会 理事
災害対策特別委員会 理事
決算委員会 委員

《自民党》

参議院自由民主党 国会对策委員会 副委員長
災害対策特別委員会 事務局次長
組織運動本部 國土・建設関係団体 副委員長
広報本部 新聞出版局 次長

《議員連盟》

公共工事品質確保に関する議員連盟事務局長代理

足立敏之 国会事務所

東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館501号室
Tel. 03-6550-0501 Fax. 03-6551-0501

足立敏之後援会会報
2021.1 [討議資料]